22　　富士山の不思議 　　　文法　助動詞⑦　らむ・けむ

読解　和歌の比喩をつかむ

作者が鎌倉への途上、路にさしかかった場面である。

富士の山を見れば、たたず。昔、父のに誘はれて、「いかにの浦なれば」など詠みし頃、までは見しかば、「富士の煙の末も朝夕たしかに見えしものを、いつの年よりか絶えし」と問へば、①さだかに答ふる人だになし。

　②たが方になびき果ててか富士の嶺の煙の末の見えずなるⓐらむ

『古今』の序の言葉とて、思ひ出でられて、

　③いつの世ののか富士の嶺の雪さへ高き山となしけむ

語注

父の朝臣＝作者の父、平。

いかに鳴海の浦なれば＝作者が過去に詠んだ歌。「鳴海」に地名の「鳴海」と「なる身」が掛けられている。

遠江国＝現在の静岡県西部。

『古今』の序の言葉＝『古今和歌集』序「高き山も、麓のより成りて、たなびくまで生ひ上れるごとくに」を指す。

【原文】

富士の山を見れば、煙たたず。昔、父の朝臣に誘はれて、「いかに鳴海の浦なれば」など詠みし頃、遠江国までは見しかば、「富士の煙の末も朝夕たしかに見えしものを、いつの年よりか絶えし」と問へば、さだかに答ふる人だになし。

　たが方になびき果ててか富士の嶺の煙の末の見えずなるらむ

『古今』の序の言葉とて、思ひ出でられて、

　いつの世の麓の塵か富士の嶺の雪さへ高き山となしけむ

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

富士の山を見ると、今は［　　　］が立っていない。昔、［　　］と来た頃は立っていたが、いつ［　　　　］たのか誰もわからない。富士の煙から『［　　　　］』の序の言葉が思い出されて、歌を詠んだ。

問二　二重線部ⓐの助動詞の文法的意味を選べ。〈3点〉

ア　推量　　　イ　現在推量　　ウ　現在原因推量

エ　現在伝聞・婉曲　　　　　　オ　過去推量

カ　過去原因推量　　　　　　　キ　過去伝聞・婉曲

〔　　　〕

問三　［チェック問題］助動詞⑦　らむ・けむ

(1)　次の活用表を完成させよ。〈1点×2〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| けむ | らむ |  |
|  |  | 未然形 |
|  |  | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
|  |  | 命令形 |
|  |  | 接続 |

(2)　次の傍線部の助動詞について、文法的意味を、問二の選択肢から選べ。〈2点×4〉

1　ひじりのいひけむやうに…（徒然草）

2　見渡せば山もとかすむ夕べは秋となに思ひけむ（新古今集）

3　風吹けば沖つ白波たつた山にや君がひとり越ゆらむ（伊勢物語）

4　とどろきの滝は、いかにかしがましくおそろしからむ。（枕草子）

1〔　　　〕　2〔　　　〕　3〔　　　〕　4〔　　　〕

問四　傍線部①について、

(1)　 現代語訳せよ。〈7点〉

　〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

(2)　 何について答える人がいないのか。十五字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部②の説明として最も適当なものを選べ。〈10点〉

ア　富士の煙が立たなくなったことを、風が吹かなくなったことが原因だと考えている。

イ　富士の煙が立たなくなったことを、別の人になびいてしまった恋人の心に例えている。

ウ　富士の煙が立たなくなったことを、富士山の火山活動が終わったのだと解釈している。

エ　富士の煙が立たなくなったことを、神様が土地を離れていくことに見立てている。

〔　　　〕

問六　傍線部③の解釈として最も適当なものを選べ。〈10点〉

ア　いつの時代の塵が積もって、富士山を雪までもが降り積もる高い山にしたのだろうか。

イ　長い間の塵が積もって、富士山は雪が降り積もるほど高い山になってしまうのだろう。

ウ　この世界のすべての塵が積もって、富士山を雪までもが降る高い山にしたのだ。

エ　いつの時代からの塵が積もって、富士山はに雪が降り積もるような山になったのだろう。

〔　　　〕

【解答】

問一　煙／父／絶え／古今

問二　ウ〈3点〉

問三　(1)〈1点×2〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| けむ | らむ |  |
| 〇 | 〇 | 未然形 |
| 〇 | 〇 | 連用形 |
| けむ | らむ | 終止形 |
| けむ | らむ | 連体形 |
| けめ | らめ | 已然形 |
| 〇 | 〇 | 命令形 |
| 連用形 | 終止形  （ラ変型には連体形） | 接続 |

(2)　1＝キ　2＝カ　3＝イ　4＝ア〈2点×4〉

問四 (1)　はっきりと答える人さえいない。〈7点〉

(2)　富士の山から煙が絶えた年。（13字）〈10点〉

問五　イ〈10点〉

問六　ア〈10点〉

【現代語訳】

富士の山を見ると、煙が立たない。昔、父の朝臣〔＝平度繁〕に誘われて、「いかに鳴海の浦なれば（どのようにでもなる私の身の上なので）」など（という歌を）詠んだころ、遠江国〔＝静岡県〕までは来たので、「富士の煙の先もいつもはっきりと見えたのに、いつの年から絶えたのか」と聞くと、はっきりと答える人さえいない。

　　誰のいる方向になびききってしまったから、富士山の煙の行く末が見えなくなっているのでしょうか。

『古今（和歌集）』の序の言葉といって、私は自然と思い出されて（詠んだ歌）、

　　いつの時代の麓の塵が（積もったから）、富士山を雪までもが降り積もる高い山としたのでしょうか。

【補充問題】

問１　「いかに鳴海の浦」（１行目）には、どのような表現が重ねられているか。その表現を六字で答えよ。

問２　①「いつの年よりか絶えし」（２～３行目）、②「思ひ出でられて」（５行目）を現代語訳せよ。

問３　「たが方に…」の和歌の係助詞と結びの語を抜き出せ。また、結びの語については文法的に説明せよ。

問４　作者は富士の煙が見えなくなった原因を何のためと言っているか。本文中から十字以内で抜き出せ。

問５　作者は、以前に見た富士と現在の富士との変化に非常に驚いているが、作者が実際に富士を見たことがあるということがわかる表現を一文節で抜き出せ。

【補充問題解答】

問１　いかになる身

問２　①いつの年から絶えたのか　②自然と思い出されて

問３　係助詞：か／結びの語：らむ　現在原因推量の助動詞「らむ」の連体形

問４　たが方になびき果てて（10字）

問５　見えしものを